

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

はいさい

《沖縄協同病院医師研修理念》

- 基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。

休診のご案内

8月28日(金)は旧盆(ウークイ)のため、休診となりますのでご了承下さい。

※尚、救急は随時受付しております。



物療室よりお知らせ

物理療法室では、職員の退職に伴い、9月10日より左記の通り体制変更を行います。

スタッフ体制：鍼灸師1名、助手1名

診療日：月・金曜日及び第1、3土曜日

(土曜日は午前のみ)

受付時間：午前8時45分～11時

午後1時30分～3時まで

新たにウオーターマッサージベッドを設置します。

患者様にはご不便をおかけしますが、ご理解・ご協力のほど宜しくお願いします。

「医療福祉生協いのちの章典」講座に参加して



7月3、4日の2日間「医療福祉生協いのちの章典」の講師養成講座が東京で開催され、参加して参りました。

これまでの「患者の権利章典」が、闘病する人が主体者として権利と責任をうたっていることについて「いのちの章典は」健康な

人で病院に足を運ばない方も含めて・地域まるごとの健康づくり・地域住民と医療や福祉の専門家が協同して、わがをを広げるといふ理念にもとづいた5つの権利をうたい、ガイドラインが作成されたそうです。

それは1. 自己決定に関する権利 2. 自己情報コントロールに

関する権利 3. 安全・安心な医療・介護に関する権利 4. アク

セスに関する権利 5. 参加と共同 以上5項目です。全国から集

まった36名の参加者の中から実践例の発表があり「地域のつながり

マップ作成」「カルテ開示の整備」

「無料定額診療の実施」「認可保育園

をつくる運動」など、私たちが

現在病院で取り組んでいることも

そのガイドラインに沿った活動であることを実感、さらに「認知

症の方の自己決定権をサポートする「上手な受診の仕方」「リビングウィル(尊厳死の宣言書)の班会」の開催など活動をさらに発展させて実践している全国の職員や組合員、理事の方たちの取組みも聞くことができました。

私たちは医療従事者であると同時に組合員でもあります。

病院内だけでなく地域の活動も含めて「地域まるごと健康づくり」

を5つのガイドラインに沿って取り組んでいくことがすべての人々の

幸せづくりに貢献することだと感じました。

改めて医療福祉生協の職員である

ことを誇りに思うと同時に、微

力ながら今回学ばせて頂いたこと

を今後実行していこうと思いま

した。

総合案内 大田明子

心臓リハビリテーション②

108 心臓リハビリ

前回、「心臓リハビリテーション」(以下心臓リハビリ)についてお話ししましたので、今回は急性心筋梗塞を例に、実際にどのように心臓リハビリが進んでいくのか、お話ししたいと思います。

急性心筋梗塞で入院すると、まずICU(集中治療室)で治療を受け、医師の許可が出れば、2〜3日後に一般病棟に移ります。

リハビリの進行度は、心臓へのダメージや年齢によって個人差がありますが、通常は翌日からリハビリが開始になり、当院では1週間・2週間・3週間コースが医師の指示により決まります。

リハビリ開始→理学療法士がリハビリの進め方を説明、計画表に沿って、座位のテストから開始→立位→歩行へと進めていきます。

テスト中は、胸痛や不整脈・めまい・心臓発作などを避けるため、テスト前後に心電図・全身状態のチェック、理学療法士が患者様に付き添い、看護師が心電図モニターを見ながら安全に行います。



例：1週間コースの場合

経過が順調であれば4日目に200m歩行テスト・5日目に自転車テストを行い、退院に向けての生活指導開始。
☆生活指導：栄養士による栄養指導・薬剤師による

服薬指導を受け再発予防・退院後の生活の改善方法などの知識を身につけて頂きます。



☆臨床心理士のカウンセリングを受け、社会復帰や職場復帰へのアドバイスや不安・ストレスなどの相談をすることもできます。

☆退院後は、エアロビクス体操や自転車運動を中心とした外来での心臓リハビリに週1〜3回通院して頂きます。また、運動負荷試験を行い、一人ひとりに最も適した運動の強さや運動時間を決定し、医療スタッフの監視の下で運動トレーニングを行います。

心臓リハビリで大切な事は、運動を安全に正しい方法で行うだけではなく、禁煙や食事療法もあわせて行い、再発のリスクを減らすことです。また、長く続けることが最も大切で、長く続けなければ良い効果が出ません。「継続は力なり」です。無理せず長く続けましょう。

心臓リハビリチーム
専従看護師 亀谷なつみ



糖尿病患者会

かりゆし会総会が行われました



6月27日(土)かりゆし会総会が会員と家族21名の参加で行われました。院長の仲程先生から1年間血糖コントロールを良好に保たれた方へ表彰が行われ、グッドコントロール賞11名、努力賞3名、合計14名の方々が表彰されました。

惜しくも受賞を逃した方の中から、早くも「今日から頑張って来年は表彰されるぞ」と宣言される方もいらっしゃいました。血糖コントロールが良く表彰を受けた方は、食事を野菜中心に油を使わず、蒸す、ゆでる、という風に調理の仕方を工夫したり、ご飯の量を決めて実行されているとの報告もありました。食事の療法は本当に効果があります、そして一緒に運動療法

も適切に行うことが、良いコントロールにつながると思います。

院長のあいさつで、治療を中断していた糖尿病の方が、急な視力低下と体重の減少で外来を受診され、合併症発症の診断で入院に至ったお話があり、定期的な受診の必要性を改めて感じさせられました。

年間行事の報告の中では、恒例の1泊旅行は医師と看護師が同行するため、安心して参加できるので継続を望む声がある一方、年々参加者が減ってきている現状があり、新規の会員を増やすこと、内容の充実、旅行先の選択が今後の検討事項となりました。

かりゆし会事務局担当
看護師 金城清美



虹の箱とは患者さまの声を医療活動に反映させていくための投書箱です。

投書

救急で中央受付後、中央受付の方が「まっすぐ行って右横に患者受付があります」といわれ以前の感染者扱いの受付と思いカルテを入れていたら別の受付の場所だった。受付の中央に目印をして〇番受付の所まで行って下さい、と番号か何かあれば初めての方でもわかりやすいと思いました。

回答

ご意見有難うございます。以前は「〇番」という形で案内を行っていましたが、そのまま診察室「〇番」に入ってしまう患者様もいた為、現在は「突き当り右奥のカウンター」にカルテを出すようお願いしていますが目印となるものがなく分かりづらく申し訳ございません。今後は病院利用委員会等相談の上、院内での場所表記をわかりやすくしていきたいと思っております。

医事課 大城 真也



事務次長就任 あいさつ

7月1日付けで沖縄医療生協本部・人事教育部から沖縄協同病院へ異動となり、事務次長に任命されました。経営資料作成や施設基準届出等の分野について主に役割を担うことになりました。

超高齢化社会を前に、医療・介護のあり方にも大きな変化が出てくる情勢となっており、沖縄協同病院もそれに柔軟に対応していかなければならない時期が迫ってきています。

地域組合員の要求を基に発展してきたのがわれわれ沖縄医療生協ですが、これからはますます地域の組合員さんと職員との協力共同が大事になってくるかと思っております。地域から必要とされる病院として発展していけるよう、これまでどおり、地域組合員の皆様のご指導・ご鞭撻を宜しくお願い致します。

事務次長 後藤勝治

病院の活動状況 <6月度>

- ・外来一日平均患者数:580人(前年同月比+12人)
- ・入院一日平均患者数:278人(前年同月比±0人)
- ・組合員利用率:57.1%(前年同月比+1.2%)

季節の挿絵



『暑中お見舞い申し上げます』
画・内科医 上原 和博

NPT核不拡散条約再検討会議ニューヨーク会議に参加して 第2回



長谷川 千穂 医師

2回目の報告になりますが、ニューヨークに行く前から随分とたち、すっかり通常の業務に追われる日々となっています。

これを書いている前の週に何と、安全保障関連法案が衆議院で可決されました。確実に戦争への道を突き進んでいるこの国で、日々の業務に追われる生活をしています。

ニューヨークでは本日に非日常な事として、街角で反核の署名の訴えを毎日行いました。迷惑そうに避ける人もいれば、折り鶴珍しさに近づいて来る人、積極的に話しかけてくる人などたくさんおられました。英語が十分に理解できないので意思疎通には苦労しましたが、「反核」について人と話す事それ自体が重要な事であったと思います。

今、私たちは戦争について、国会を通過しようとしている「安全保障法案」について、「平和」について、日常を共に過ごす大切な人たちとこそ話をしなければいけないのではないかと思っています。

おきなわの自然



マンゴー

去年から20本程のマンゴーを育てている。ハウスの中ならほっといても実はできると思っていたが、ところがどっこいである。今は収穫期なので鼻歌を歌いながら収穫しているが、これが大変だ。収穫後の作業は、お礼肥の施肥↓枝の剪定↓枝の誘引↓花の吊り上げ↓実の吊り上げ↓実の袋掛けとなるが、その間にも草刈りや受粉作業、虫取り、水やりが必要だ。一番大変なのは台風の際にハウスのビニールをはがしたり、覆ったりすることだ。老体を思い知らされながらの作業はつらいものがある。今ではマンゴーほど手のかかるものはないと思っているが、収穫の喜びがその苦勞を吹き飛ばしてくれるので止められない。

見返りが苦勞を上回る喜びであることを信じれば、人は苦勞と感ずることはないのだ。毎日毎日辺野古や集會にと足を運ぶ県民にとって新基地建設阻止の実現は何ものにも代え難い喜びとなるだろう。

とよみ生協病院
総務課長 金城稲子